

学会受賞報告

日本歯周病学会 学術賞

令和2年度 日本歯周病学会学術賞 受賞報告

高度口腔機能教育研究センター 前川 知 樹

この度、令和2年度日本歯周病学会学術賞を受賞いたしましたのでご報告いたします。日本歯周病学会学術賞は、歯周病学において継続して優れた業績をあげた研究者を対象としており、受賞課題名は「内因性抗炎症分子DEL-1誘導における歯周病治療法の基盤研究」です。本賞はこれまでに発表した学術雑誌10報を選考対象としており、新規性・独創性・発展性・応用性から審査されます。

歯周病は歯の喪失による生活の質の低下に限らず、心疾患や関節リウマチ等の全身疾患の発症および増悪に寄与することが示唆されています。私は歯周病の制御を目指し、抗炎症作用を持つDEL-1分子に着目した研究を推進してきました。DEL-1は炎症の進展に反し減少しており、DEL-1

の接種による炎症の制御と骨破壊の抑制が見込めます。そこで、マウスおよびサルを使用した実験的歯周炎モデルにてDEL-1の効果を示しました。さらにDEL-1には、骨代謝や炎症制御の他に、幹細胞の増殖と分化誘導機能があることや、老化とともに減少することで加齢性炎症による全身の炎症と骨破壊を引き起こすことも明らかになりました。今後はDEL-1の誘導による新しい歯周病治療および骨再生療法への展開を目指していこうと考えています。興味を持たれたかたはぜひ一緒に研究をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。

今回の受賞にあたりご推薦いただきました多部田康一教授および研究協力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。



学術賞の盾

IADR/Unilever Hatton Divisional Awardを受賞して

歯周診断・再建学分野 山崎 恭子

2019年夏に東京で行われましたIADR Hatton Award国内選考会においてIADR/Unilever Hatton Divisional Awardを受賞し2020年度IADR学術大会においてHatton Award2020最終選考（Web開催）に参加いたしましたのでご報告申し上げます。

演題名は“Oral pathobionts aggravate NAFLD through modulation of gut dysbiosis.”です。歯周病原細菌の嚥下により引き起こされる腸内細菌叢の変動が、肝疾患であるNAFLDの病態悪化を誘導するメカニズムについてマウスを用いた動物実験を行い、その成果を発表いたしました。我々の研究班では以前から歯周病と全身疾患の関連について、腸内細菌叢の変動をキーワードにそのメカニズムの探索を行っています。これまでに、代表的な歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* の経口投与が腸内

細菌叢の変動を介し内毒素血症を誘導し、さらにインスリン抵抗性と全身性の炎症をもたらすことを報告してきました。（Arimatsu K *et al.*, Sci Rep. 2014）病態への影響を明確にするため、今回実際の疾患モデルとしてNAFLDモデルマウスを使用し、腸内細菌叢・血清メタボロームの変動とそれに伴う肝病態の悪化を確認しました。

現在腸内細菌叢というテーマは雑誌やテレビでも多数取り上げられており、一般社会に広く知られています。我々の研究により全身の健康における口腔の重要性を世界に発信したいと願っています。

最後になりましたが受賞にあたり研究のご指導をいただきました山崎和久教授、並びに歯周診断・再建学分野の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本小児口腔外科学会 学術奨励賞を受賞して

新潟大学医歯学総合病院薬剤部 顎顔面口腔外科学分野 吉田 謙 介



はじめまして。新潟大学医歯学総合病院薬剤部に所属しております。吉田謙介と申します。現在、東3階病棟専任薬剤師として歯科医師の先生方と一緒に仕事をさせて頂きながら、社会人大学院生として顎顔面口腔外科学分野で臨床研究を学ばせて頂いております。

この度、2020年度日本小児口腔外科学会学術奨励賞を受賞いたしましたのでご報告させていただきます。演題名は「小児口腔外科症例の処方投薬に関する疑義照会の検討」です。

薬剤師業務の一つ、疑義照会（薬剤師が処方内容に疑問点や不明点を感じた場合、処方医に内容の確認を行うこと）において、乳幼児から超高齢者まで幅広い年代の患者が入院し、対象疾患も

様々である歯科病棟を対象としたものはこれまで報告がありません。今回、病棟担当薬剤師による疑義照会の中で口腔外科疾患を有する小児患者に着目し、検討を行いました。その結果、疑義照会が行われた小児患者はすべて処方変更があり、内訳は用法用量に関する内容でした。小児患者では個体間変動の大きいことを念頭に、最新体重の把握に努め、適正な薬剤の用量を設計し、処方する必要があると考えられました。

社会人大学院生の期間に3度目となる受賞をすることができました。こうした研究を薬剤師の視点から継続し、医療の現場へ貢献できるように尽力したいと思います。

最後になりましたが、本研究遂行にあたりご指導を頂きました顎顔面口腔外科学分野の高木律男教授、児玉泰光先生、ならびにご協力頂きました全ての先生方に心より感謝申し上げます。

学会受賞報告

小児歯科学分野 野上 有紀子

この度、第37回日本障害者歯科学会学術大会にてプロフィラックス賞を受賞いたしました。今回の学術大会は横須賀での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けWeb開催となりました。視聴側としましてはスケジュールをアレンジできる自由度の高い学会大会となりました。そのような中、「一時保護所における被虐待児童の歯種別う蝕有病率に関する報告」と題した発表にて賞を頂戴し大変光栄に存じます。

私ども小児歯科学分野で社会貢献の一環として一時保護児童の歯科健診、歯科保健指導を継続して行っている健診結果を基にご報告いたしました。被虐待児童においては、小児のう蝕好発部位が萌出後の早い段階で罹患しており、歯種によっ

ては重度う蝕に罹患している一方で、う蝕保有のない小児も存在し、二極化傾向にあるとの結果を得ました。歯科医師、歯科衛生士は身近にいる不適切な養育環境下の子どもや保護者に早期より関わる位置にいます。そのため、患児の口腔内の情報を軸に背景にある養育環境の変化から“気づき”を得て、対応していくことが期待されています。

今回の賞は、新潟市歯科医師会、児童相談所・一時保護所、新潟大学口腔生命福祉学科、医局の先生方のご理解とご協力により頂戴できたものと存じます。また、ご指導下さった早崎治明教授、齊藤一誠先生、中村由紀先生をはじめ、小児歯科学分野の先生方に心より感謝申し上げます。



第48回日本歯科麻酔学会学術集会 最優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）受賞報告

歯科麻酔学分野 小山 祐 平

この度、第48回日本歯科麻酔学会学術集会において日本歯科麻酔学会最優秀発表賞（デンツプライシロナ賞）を受賞しましたので報告いたします。演題名は「脂肪組織由来幹細胞の抽出物が神経系細胞に及ぼす効果の検討」です。

今年は当初、徳島での開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、学会初のウェブ開催となり、演題発表はZoomウェビナーでの発表形式となりました。初の発表形式にちょっとした戸惑いもありましたが、程よい緊張感で、発表に臨むことができました。

本研究は、マウスの脂肪組織より幹細胞（Adipose-derived Stem Cells : ADSCs）を培養し、そこから細胞膜成分を除去した抽出物（cell extract : CE）の末梢神経再生に及ぼす効果を、CEに発現する血管新生タンパク質の解析、Schwann細胞増殖能への効果、ラット脊髄後根神経節由来ニューロンの突起伸長効果、下歯槽神

経損傷モデルにおける神経再生能の評価の面から検討しました。

その結果、CEに含まれる成分は、ADSCsと同様に神経系細胞に対し、促進的な効果があることがわかりました。

本研究は、末梢神経の再生を通して、下歯槽神経の損傷によって引き起こされる痛みや異常感覚を改善する可能性のある将来の臨床に繋がる研究です。

なお、授賞式は、来年、北海道札幌市にて開催予定の第49回学術集会で行われる予定です。

今回の受賞を励みに、今後も研究活動に邁進していきたいと思えます。

最後に、ご指導を賜りました岸本直隆先生、瀬尾憲司教授、医局の先生方、ご意見をいただきました先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。